

桜のある水辺風景 2010



応募写真集



日本河川・流域再生ネットワーク

はじめに



会員の皆さんから「桜のある水辺風景」の写真を募集したところ、9名の応募がありました。初めての試みでしたのでどのくらい集まるのか不安もありましたが、だいたい想定通りだったと思います。たいへんありがとうございました。

JRRN ではこのような貴重な写真を広く集めて皆様に見ていただくことで、各地の川づくりや研究に役立つようにと考えています。

応募された写真やコメントを1枚、1枚見ていると、どの写真も構図やシャッターチャンスに工夫がされており、たいへん参考になります。また、撮影されている方が真剣にカメラを構えている様子が目に浮かびました。

言うまでもなく桜のシーズンは1年の中でごく限られています。だんだん歳を重ねてくると美しいと思うだけでなく、このような風景が来年もまた見られるだろうか、また、あと何度見られるだろうかと感傷に浸ることもあります。

桜に限らず、日頃から川の風景をしっかり観察しながら、川の本質を極めていきたいものです。

「散る桜、残る桜も、散る桜」 (良寛)

佐合 純造

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局長
(財) リバーフロント整備センター 河川・海岸グループ長

企画趣旨

JRRN では、水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目指して、2010年に撮影された「桜のある水辺写真」をJRRN会員皆様より募集し、9名の方々より素敵なお写真をご応募頂きました。

- テーマ： 「桜のある水辺風景 2010」 ※2010年に撮影された写真限定
- 応募資格： JRRN 会員
- 作品規定：
 - ・応募は一人何点でも可能です。ただし応募作品は自ら撮影したものに限りします。
 - ・写真サイズはキャビネ以上、デジタル画像であればキャビネサイズ印刷でも鮮明なレベルとします。
 - ・個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。
- 応募期間： 平成22年3月15日(月)～平成22年5月31日(月)。

本冊子では、ご応募頂きました皆様のお写真を、頂きましたコメントと共にご紹介させていただきます。

(ご応募頂きました順に作品をご紹介致します)

応募作品

世界の人を迎えるSAKURA

今年の10月に生物多様性条約の第10回目の締約国会議（COP10）が愛知・名古屋で開催されます。このCOP10は、堀川沿いにあるこの名古屋国際会議場を中心に開催されます。

この堀川（名古屋城が築かれた時に開削された人工の河川）は、戦後の復興・発展とともに水質が年々悪化し、昭和40年代に汚濁がピークとなり「死せる川」とまで言われました。

しかし、行政と流域の市民が連携・協働した取り組みによって、水環境が少しずつ改善し、今では遊覧船からの花見も楽しめるようになりました。

今年、堀川は開削400年を迎えました。



撮影◎滝宏志

2010年3月 愛知県名古屋市・庄内川水系堀川



撮影◎滝宏志

2010年3月 愛知県名古屋市・庄内川水系堀川

春をつげる堀川の桜

堀川は名古屋城が築かれた時に開削された人工の河川です。この堀川は、今年、開削400年を迎えました。

この桜は春を待つ3月のはじめに花をつけます。

堀川は、戦後の復興・発展とともに水質が年々悪化し、昭和40年代に汚濁がピークとなり「死せる川」とまで言われました。しかし、行政と流域の市民が連携・協働した取り組みによって、水環境が少しずつ改善し、今では遊覧船からの花見も楽しめるようになりました。

今年の10月に生物多様性条約の第10回目の締約国会議（COP10）が愛知・名古屋で開催されます。COP10は、この堀川沿いにある名古屋国際会議場を中心に開催されます。

春めいた桜色の景色が広がる小京都

山陰の小京都と言われる津和野には、落ち着いた日本のよき時代の風景が残されています。日本五大稲荷のひとつ・太鼓谷稲成神社に登る途中から、津和野川と町並みが箱庭のように広がり、まだ満開とはいえぬ桜が浮かび上がります。この時期の桜と石州瓦の屋根の色がほんのり調和して美しさが拡大します。



撮影◎岡村幸二

2010年4月 島根県津和野市・津和野川

指月城の舞台に散る桜ふぶき

萩城は別名指月城（しづきじょう）ともいわれ、江戸時代に長く毛利氏の城でありましたが、文久3年（1863年）に藩庁を山口に移してからはその役目を終えています。明治7年（1874年）前年に発布された廃城令により櫓など他の建物と共に破却され、石垣のみが現存しています。昔と変わらないお濠の水面を前に、背後に自然豊かな指月山の緑に囲まれて「桜のハレ舞台」として輝いています。



撮影◎岡村幸二

2010年4月 山口県萩市・指月城



撮影◎岡村幸二

2010年4月 山口県山口市・一の坂川

環境・生態を文化に取り込む川づくり

1970年代に「一の坂川」といえば、ホテルの飛び交う河川事例の代名詞になっていました。私が最初に現地視察に来たときは、「河川環境」の視点から水際線ばかり観察していました。次に訪れたときには、「景観」の視点から護岸の石積みの風合いに感じたものです。今回は5回目になると思いますが、初めて桜の季節に出会い、その川の華やかさ、川と一体になった美しい家並みに改めて感動することができました。「ここには文化がある。」「人々が大切にしている場の雰囲気がある。」美しい桜と川のビスタ景観を眺めながら、しばし喜びにひたっていました。

隅田川の桜と建設中の東京スカイツリー

陳腐な構図ですがこの状況は今年だけです。



撮影◎佐合純造

2010年4月 東京都墨田区・隅田川

隅田川の桜

舟のお客さんの数にびっくりでした。



撮影◎佐合純造

2010年4月 東京都墨田区・隅田川



撮影◎佐合純造

2010年4月 東京都杉並区・善福寺池

善福寺池の散り桜

日曜日の午後、枝の花見をしている人も多くいましたが、池の中の浮いた桜がじゅうたんを引き詰めたように見応えがありました。本来、散った桜は哀れなはずですが。

市民と土木技術者が守った にぎわいのある水辺

朝霞市の市街地を流れる黒目川では、洪水による氾濫を防ぐために堤防をつくる計画となっていました。しかし、堤防をつくらせると市民に親しまれてきた水辺のサクラを伐採しなければなりません。そこで、市民と土木技術者が知恵を出し合い、いままでの改修計画を見直すこととし、サクラ並木を保全しつつ、治水上也安全となる川づくりが実現しました。緑陰の多い黒目川はふだんから多くの市民が行き交い、生活にとけ込んだ水辺空間となっていますが、サクラの季節には一段とそのにぎわいが増えています。



撮影◎木村達司

2010年4月 埼玉県朝霞市・黒目川



撮影◎稲葉修一

2010年4月 埼玉県・見沼代用水

見沼通船掘の桜

享保の改革で井沢弥惣兵衛為永の築いた見沼代用水と芝川を結ぶ見沼通船掘に行きました。見沼通船掘は、享保16年に開通したわが国最古の閘門式運河と言われ昭和57年7月に国指定史跡に指定されています。(写真に閘門が写っていないのが残念ですが。)

通船掘沿川には遊歩道が整備され、竹林や桜並木があり、周辺の住宅は通船掘側をむいて建っています。

「地域の誇り」であり「まちに賑わいをもたらす」用水路網のデザインが残っていました。



撮影◎渡部秀之

2010年3月 東京都杉並区・神田川

川を覆いつくすように枝を伸ばす桜並木

この日は神田川をJR山手線高田馬場駅から、京王井の頭線下高井戸駅まで歩きました。さすがに東京都の川は、単断面の掘込河道で護岸でしっかり固められていますが、その割には、両岸川沿いに遊歩道がきちんと整備されていて、しかも、桜並木が多く、気持ちよく歩き続けました。

荒川下流河川事務所にある知水資料館から眺めた荒川と赤水門

この日は、JR王子駅近くの飛鳥山の桜を見て歩いたあと、岩淵の荒川を訪ねてみました。新河岸川の赤羽桜堤緑地から河川事務所まで荒川堤防を歩いて、知水資料館に立ち寄りました。青山士の半生などの展示や赤水門、青水門など、一度は見物したかった現地を桜咲く気分のいい日に行くことができました。



撮影◎渡部秀之

2010年4月 東京都北区・荒川(岩淵赤水門)

**鳩も思わず見とれている、
桜の花びらで桃色となった石神井川**

この日は、西武池袋線石神井公園駅から石神井川を下流に向かって、JR王子駅まで歩きました。川沿いの桜並木に咲くたくさんの桜の花びらが散り始めていて、下流に進むに連れて川面を覆いつくすばかりに増え、縞模様を描きながら流れていました。



撮影◎渡部秀之

2010年4月 東京都北区・石神井川



撮影◎渡部秀之

2010年4月 東京都・多摩川水系浅川支川北浅川

護岸で遊ぶ入学式を終えた新入生

東京都が管理する区間だったが、護岸がしっかり施工されていた。記念写真を撮ろうと親御さんがカメラを構えていたのに、新入生君は護岸の上を冒険して遊ぶことに忙しいように見えた。

小河内ダム湖（奥多摩湖）畔を彩る桜

4月半ばを過ぎ、更なる満開の桜を求めて多摩川の上流を目指しました。一度は訪ねてみたかった小河内ダムに、この季節に足を延ばした甲斐があったと思いました。私が生まれた年（昭和32年）と同じ年に完成したダムが、歴史と風雪を経て、山奥の地形に馴染んで行んでいることに嬉しく感じました。



撮影◎渡部秀之

2010年4月 東京都・多摩川水系小河内ダム

赤谷湖の鏡

雨上がりの湖畔の水面の美しさが遅い桜と相俟って素晴らしかったのでついシャッターを切りました。



撮影◎荒木輝夫

2010年4月 群馬県利根郡・利根川水系赤谷湖



撮影◎和田彰

2010年4月 東京都中央区・日本橋川（日本橋）

日本の中心で咲き誇る日本橋の桜

高速道路の日陰を吹き飛ばすように咲き誇る一本の桜を見て、ついカメラを構えてしまいました。

川面もテラス也大混雑の隅田川

これだけの人で賑わうのは、きっと花火大会の時と桜の季節だけでしょうか。しかし、墨堤としてこの光景が江戸時代より現在まで続いていることを考えると、東京を代表する桜風景として感慨深いものがあります。



撮影◎和田彰

2010年4月 東京都墨田区・隅田川

目黒川にてハイ・チーズ

800本を超える目黒川沿いの桜並木。毎年この時期は大勢の花見客で賑わいますが、桜の季節以外にも注目される川になってほしいと願っています。



撮影◎和田彰

2010年4月 東京都目黒区・目黒川

二分咲きでも満足の弘前城

今から300年ほど前に、津軽藩士が京都から25本の苗木を持ち込み城内に植えたのが始まりと伝えられている弘前公園の桜。残念ながら満開の時期の訪問とはなりませんでした。二分咲きでも迫力があるのは、さすが東北一の桜の名所です。



撮影◎和田彰 2010年4月 青森県弘前市・弘前城

浸水の街の子供から、親水の街の子供へ

ちょっと時期を逃してしまいましたが、わが家の近くの親水公園です。サクラの季節は花見をするご近所同士や親子連れ、夏になると水遊びをする子供達の歓声があふれます。私が幼い頃（50年近く前）はいまよりももっと広く、深いドブ川で、コンクリート板をわたしただけの橋をおっかなびっくり渡ったものでした。雨が降るとすぐにあふれ、街は水びたしになりました。私の子供達が幼い頃（20年近く前）は休みのたびに保育園仲間が集まり、日がな一日遊んでは、親子で水びたしになって遊んだものです。さて、いずれ孫たちもここで思い出をつくるのでしょうか。



撮影◎木村達司

2010年4月 東京都江戸川区・小松川境川親水公園

桃色の花が見つめる水辺風景

東武東上線から一際目を引く桜並木です。
いつもの風景に追加される一色が、新しい人
を水辺に誘ってくれます。

カモが泳ぐ水辺で子どもたちが遊ぶ。そんな
きらきらした風景がそこにありました。



撮影◎沼田彩友美

2010 年 4 月 埼玉県朝霞市・黒目川



撮影◎沼田彩友美

2010 年 4 月 埼玉県朝霞市・黒目川

桃色の花が見つめる水辺風景 その2

おわりに

JRRN 会員皆様より素敵な写真をご応募頂きまして、誠にありがとうございました。桜のある水辺風景写真を通じ、日本の魅力を再発見することができました。

来年（2011 年）も本企画を予定しておりますので、皆様から多数のご応募をお待ちしております。

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材情報等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に、（財）リバーフロント整備センターが 2006 年 11 月に設立した団体です。また、日中韓で設立した「アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時にアジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

<http://www.a-rr.net/jp/>

○応募作品のお取扱いについて：

今後、ご応募頂きました写真を、JRRN が発行する「手引き」等の冊子や JRRN ホームページ等で使用する場合は、使用目的や掲載媒体について予め応募者にご連絡をさせて頂き、撮影者了承の上で使用させて頂きます。

桜のある水辺風景 2010 応募写真集

発行日	2010 年 6 月 10 日
発行	日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
事務局（連絡先）	〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフター中央ビル 7 階 財団法人リバーフロント整備センター内 Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net , URL: http://www.a-rr.net/jp/

※JRRN/ARRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、財団法人リバーフロント整備センターと株式会社建設技術研究所が運営を担っています。



日本河川・流域再生ネットワーク